

## 令和5年度【大田区立東調布第一小学校・国語科授業改善推進プラン】

### ◎ 小学校国語科における分析

学習効果測定の結果の分析	4年	5年	6年
	どの領域においても、目標値・区平均・全国平均正答率を上回っている。特に、「我が国の言語文化に関する事項」と「書くこと」の領域の正答率が、目標値を大きく上回っている上に、正答率も高い。一方、「主語と述語の関係についての理解」と「登場人物の気持ちの変化について具体的に想像すること」の問題については目標値を下回っているため、指導の充実が必要である。	どの領域においても、目標値・区平均・全国平均正答率を上回っている。特に「情報の扱い方に関する事項」の領域では、目標値を大きく上回り、前年度よりも上がっている。一方、問題の内容別に見ると、「連用修飾語について理解している」が目標値を下回っているため、指導の充実が必要である。	どの領域においても、目標値・区平均・全国平均正答率を上回っている。特に「書くこと」の領域では、目標値を大きく上回っている。一方、問題の内容別に見ると、「資料から読み取った事実を書いている」が目標値を下回っているため、指導の充実が必要である。また、「和語・漢語・外来語についての理解」の問題が目標値は上回っているものの区平均正答率よりやや下回っているため、さらなる指導の充実が必要である。
分析 観点別結果の	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	どの学年も、目標値及び区の平均、全国の平均を大きく上回っている。5年生では、特に大きく上回っている。	どの学年も、目標値及び区の平均、全国の平均を大きく上回っている。5・6年生では、特に大きく上回っている。	どの学年も、目標値及び区の平均、全国の平均を大きく上回っている。5・6年生では、特に大きく上回っている。

### ◎ 国語科の今回の調査における課題

- ・ 領域別分析・観点別に結果を分析した結果、ほとんど全ての領域・観点で、どの学年も校内平均正答率が、目標値・区平均・全国平均を上回っていた。このことから、全学年において、国語科の学力が定着しているといえる。
- ・ 書く力は、資料から読み取った事実を明確にして書く力を伸ばす必要がある。
- ・ 読む能力は、物語において、「登場人物の気持ちの変化について具体的に想像する」力について課題がある。
- ・ 言語についての知識・技能は、学年の配当漢字は確実に定着していた。「主語述語の関係についての理解」や「連用修飾語についての理解」に課題がある。

### ◎ 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果◇と課題◆

- ◇ ICT機器の活用により得られる様々な情報から必要な部分を取り出したり、話や文章に含まれている情報を整理したりして、情報と情報との関係について理解を深める活動を計画的に行ってきた。これらの取り組みにより、説明文の読み取りの力が定着してきているといえる。書くことは、文の構成や言語事項の指導を「書くって楽しいね」も併用しながら指導を行ってきたため、基礎的な部分は定着してきた。
- ◆ 登場人物の心情や様子を表す叙述を基に、気持ちの変化に着目して物語文を読み進めることや、資料から読み取った事実を基に書くことに重点を置く必要がある。また、文法上の基礎的な理解の定着も課題である。

### ◎ 国語科の具体的改善策

#### 授業における具体的な手立て

- 話すこと・聞くことについては、各学年のねらいを明確にし、プレゼンテーションソフトなどを用いて資料を提示しながら全体に発表する活動や、少人数での話し合い活動などを通して、継続的に指導していく。また、話し合いの進め方や話型、聞き方のポイントを示す。
- 書くことについては、各自の調べた資料から読み取った事実と感想や意見を区別して書き表す活動を丁寧に行い、相互に書いたものを読み合う活動や推敲できる時間を設定し、文章がより良いものになるように指導を工夫する。
- 読むことについては、登場人物の心情や様子を表す叙述に線を引かせたり、気持ちの変化に焦点を当てて叙述を基に読み取らせたりする活動を計画的に取り入れる。
- 言語についての知識・技能については、語句・語彙を広げていくため、読書の推進をしていく。また、漢字の定着を図るため、日記などの課題を通して、学習した言葉や漢字を活用する機会を増やす。また、主語・述語・修飾語や和語・漢語・外来語についての理解を深めるため、「書くって楽しいね」を活用したり、日直スピーチなどで意識して話させたり、日記などの課題の中で意識させたりして、日常的に指導していく。